

## 活動記録書

開催日： 令和4年6月2日(木) 晴れ	開催テーマ：『ゆったりと鎌倉・再発見』PART II 「尼將軍・北条政子の苦悩」
開催場所：鎌倉市	記入者：佐々木 茂夫
参加人数： 会 員 21名、準会員、1名、ビジター 2名 合 計 24名	
<p>実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題など）： コース：鎌倉駅～寿福寺～鶴岡八幡宮～段葛～琴弾橋～妙本寺～鎌倉駅（解散）</p> <p>先月と違い、久し振りの晴天に恵まれ参加者は大喜び。各班6名ずつで構成。今回のテーマ、北条政子のゆかりの地を歩いた。</p> <p>鎌倉駅西口から真直ぐ、寿福寺に向う。頼朝の死後、政子は頼朝の遺志を継ぎ、栄西を開山に招き、二代將軍頼家を開基として、亀谷山という山号の寺を創建した。三代將軍実朝もしばしば訪れた。鎌倉五山第三位であり、政子と実朝のお墓がある。また、広大な墓地には、大仏次郎家のお墓など、かなりの有名な人たちが埋葬されている。</p> <p>次に、鶴岡八幡宮に参拝し、実朝が暗殺された大イチョウ付近を見学する。 段葛では、両側は北条氏や有力御家人たちの館があり、西側は千坪、東側は二千五百坪ある。通常の武士であれば百坪と言われている。段葛は神聖な参道であったため、出入り口は反対側に造っていた事、八幡宮に近づくほど道幅を狭くする遠近法を用いてその神聖さを強調した事、かつては、水はけの悪い湿地であった事などの説明あり。</p> <p>次は滑川(夷堂川)に架かる琴弾橋。橋の正面の小高い丘は「小御所ヶ丘」と言い、二代將軍頼家の妻と、その子一幡が住んでいた御所からそう言われている。昔、この丘には琴弾の松があったと伝えられ、この松の枝が風にゆれる時、ちょうど琴を弾くような美しい音がしていたので、いつの頃から「琴弾きの松」と呼ばれるようになった、ようである。</p> <p>最後は妙本寺へ。この地は鎌倉初期の幕府の重鎮・比企一族の邸跡で、「比企の乱」のあった場所である。比企能員は娘が二代將軍源頼家の夫人となり、一幡を産んだこともあり、將軍の舅として権勢を増していた。1203年に頼家の病気を巡る方針の対立から、北条時政は能員を殺害し、この地を攻めてその一族を滅ぼした。</p> <p>これを機に頼家は伊豆の修善寺に幽閉され、翌年暗殺された。幼児の能本は難を逃れ、成人して京都で学者となっていたが、後に鎌倉に戻った。日蓮に帰依した能本は一族の霊を弔うためにここに法華堂を建立して寄進した。日蓮は能本の父・母の法号「長興・妙本」の名をとって寺の名にしたという。妙本寺は広大な境内を有しており、実に静かな山間にある。</p>	
<p>参加者の状況・意見など： 久しぶりに、じっくりとガイドさんの説明を聞くことができた。とくに、政子の苦悩は、夫頼朝の死後、4人の息子・娘を失い、自身は68才まで生きたことという。また、本日のガイドさんは、雑談を交えながら、参加者を楽しませていただきました。ありがとうございました。</p>	
<p>次回の予定： 令和4年7月7日(木) 10時 鎌倉駅西口時計台広場 テーマ「畠山・和田・安達ゆかりの地」</p>	